

深志高「かるた甲子園」出場

松本深志高校(松本市)競技かるた部は、18~20日に大津市で開かれる「全国高校かるた選手権大会」の団体戦に県代表として出場する。小倉百人一首の札を取り合う大会は「競技かるたの甲子園」とも呼ばれる。出場は令和6年の出場以来2年ぶり2回目。部員たちは高校日本一を懸けた大舞台に向け、熱のこもった練習を続けている。

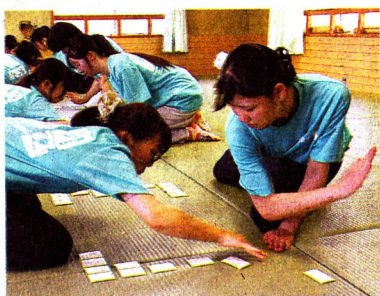
(牧野 蒼)

大舞台に向け 一丸で練習

深志高・競技かるた部の団体戦メンバー



競技かるたは、取り札100枚のうち無作為に選んだ25枚を持ち札として、自陣に置く。読み上げられた札を取り合つて自陣の持ち札を減らすことで勝敗を競う。大会に出場するのは全員3年生で、部長の大西心花^{こはな}さんと、部員の有賀咲乃さん、丸山七海さん、千国彩夏さん、伊藤志祐さん、澁谷優子さん、井口結花さん、伊藤さや乃さんの計8人。県大会では、予選リーグで大会の空気感にのまれてしまい、昨年に全国出場を阻まれた諏訪清陵高校(諏訪市)に苦戦。予選敗退の危機を、接戦の末に3



素早い動きで札を払う部員

―2で粘り勝ちした。上位2校に入れば全国大会に出場できる。大一番の松本県ヶ丘高校(松本市)との準決勝では理想とする「勝つべく部分で勝つ」試合運びで3―2で勝利。決勝では敗れたものの、全国大会への切符を手にした。

部員数は18人で、週4日の練習で部員同士が競い合い、高め合っている。札を取る動作「払い」や暗記の速度を高める「札流し」といった基礎練習を怠らず、試合に取り組み実力をつけてきた。集中力が不可欠な試合中は声かけの頻度やタイミング、かけ方が問われる。気心の知れた部員たちは、互いをよく知っているからこそチーム一丸となつて力を発揮することができることが強みだ。

全国大会を前に大西部長は「すぐ緊張するけど、まずは楽しむ。互いに支え合い、今のメンバーで勝ちたい」と意気込んでいる。